



取締役頭取

大城 勇夫

GREETING ごあいさつ

皆様には、平素より、琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

多くの皆様に琉球銀行をより一層ご理解いただくために、「琉球銀行の現状」(2006年度中間ディスクロージャー誌)を作成いたしました。

国内経済は、企業部門の好調を受けて、緩やかな景気回復が続くものと見込まれています。県内経済は、好調な観光や雇用面の改善傾向等により回復基調が持続しており、緩やかな回復を維持していくものと予想されます。

このような状況下、当行は、劣後社債および優先株式の発行により財務基盤を強化し、平成18年10月には公的資金400億円のうち340億円を返済しました。これは、公的資金という当面の課題に決着をつけ、金融環境の変化や多様化・高度化するお客様のニーズに積極的に対応できる態勢を早期に実現することを目的とするものです。

当行は、中期経営計画に掲げる諸施策を着実に実行し、地域への円滑な資金供給をすることで地域経済の活性化に貢献し、お客様の金融サービスにかかる様々な要望にお応えできる銀行、すなわち「問題解決型銀行」への変身を目指してまいります。

平成19年1月